

うめきた2期区域 中核機能の実現に向けて

前回地域部会(H28.4.13)の内容

- 中核機能の要素である「新産業創出」「知的人材育成」「国際集客・交流」について中核機能推進会議での検討内容を報告し、イノベーション拠点のテーマを「ライフデザイン・イノベーション」とすることを確認
- まちびらきまでの期間を活用し、うめきた2期の認知度や関心を高めるため、プロモーション事業や先行事業を企画・実施していくことを確認

□今後について

- ✓ うめきたが関西の研究開発拠点と産業を繋ぐ「ハブ」となるための仕組みづくりについて、引き続き関係者と具体的な連携構築に取り組む
- ✓ 中核機能の核となる新産業創出機能の具体化や産学官の役割の明確化に向けて検討を継続する



中核機能推進会議にて検討

中核機能推進会議の開催

□第4回中核機能推進会議(うめきた2期区域における新産業創出機能の実現に向けての懇話会 平成28年11月25日開催)

- 中核機能推進会議メンバーを中心に、文科省・経産省・JST・NEDOを迎えて「新産業創出機能についての懇話会」を開催
- うめきた2期が関西の「ハブ」となり、技術を橋渡しして新事業を創出していくことの必要性や、次年度からの活動の方向性等について意見交換
- 懇話会メンバーを中心に、来年度以降、具体的な活動を実施

メンバー一覧

組織	役職・氏名		組織	役職・氏名	
文部科学省	大臣官房審議官	真先 正人	関西経済連合会	健康・医療専門委員会委員長	土屋 裕弘
経済産業省	大臣官房審議官(産業技術環境局担当)	保坂 伸		専務理事	松村 孝夫
	近畿経済産業局地域経済部長	吉野 潤	大阪商工会議所	常務理事・事務局長	児玉 達樹
科学技術振興機構(JST)	理事	後藤 吉正	関西経済同友会	関西広域インフラ・うめきた委員会委員	古堅 一成
新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)	理事	福田 敦史	都市再生機構	理事・西日本支社長	西村 志郎
学識経験者	大阪大学 理事・副学長	八木 康史	大阪府	住宅まちづくり部理事	芝池 利尚
	京都大学 教授	小寺 秀俊	大阪市	経済戦略局長	井上 雅之
	合同会社SARR 代表執行社員	松田 一敬		都市計画局長	川田 均
	理化学研究所 ライフサイエンス技術基盤研究センター長	渡辺 恭良	大阪科学技術センター(OSTEC)	専務理事	美濃 由明

中核機能推進会議での主な意見

＜うめきた2期のコンセプト＞

- うめきたの地の利はポテンシャルになる。けいはんな、京都、神戸、北大阪で行われている多種多様な取り組みが、うめきたをハブとして重ねあわすことができると良い。異分野同士の出会いが大事。
- うめきたの魅力は人。年間5千万人以上が来訪する中で、多様な来街者が楽しみながらイノベーションに参画できる仕組みを作ることができれば、その魅力で世界中から人が集まってくるだろう。

＜うめきた2期に求める機能＞

- イノベーション創出には、様々な支援機関等が一堂に会して活動することは非常に有意義。各々の顔や活動が見え、日常的な接触がより深まったほうが効果が発揮できる。また、核となるコーディネーター役が重要となる。
- イノベーションにはスピード感が必要であり、ソフトウェアだけでなく、それを動かすモノを気軽に早くつくれることが重要。

＜今後の活動に向けて＞

- まちづくりに先駆けてイノベーション創出にかかる活動を実施し、人が集まり、イノベーションや新ビジネスの拠点としての実績を作っていくことが必要。
- 関西には様々な支援機関、支援制度があるので、力を合わせて大阪・関西を活性化する取り組みを進めていくことが必要。うめきたがその中心になれると良い。

イノベーションプラットフォームで実現する機能

■関西の技術につながる、人につながる

- 関西の大学・研究機関から、新しい研究テーマ、研究成果が常に発信されており、研究者と企業の研究開発担当者、商品開発担当との接点を提供される
- 研究者は、常にビジネス創出を考えている人々に出会い、企業や起業家に技術の橋渡しができる
- 国のファンディングエージェンシー等、研究開発や事業開発への資金の出し手が集まり、資金獲得のチャンスが広がる
- 実践的な人材育成プログラムが提供され、イノベーション活動に挑戦する人材が集まる

■まちを訪れる消費者と、企業等が協業する

- 「みどり」の空間で様々な未来技術やサービスを楽しみながら体験し、そこで得られる情報を活用できる
- 「みどり」の空間で展開される人々の様々な活動により、他に類を見ない研究、マーケティング、広報・展示の機会が作りだされる
- 実証事業をコーディネートするワンストップサービスがあり、利用できる

■国際的なアライアンスのチャンスが広がる

- 海外のイノベーション拠点と実践的な往来を行うパイプ・ネットワークがあり、ビジネスに利用できる
- 研究開発や事業開発の初期段階から 海外人材との協業を進めることができ、海外のニーズも見据えた開発や、海外マーケットへのアクセシビリティを高めることができる

「みどり」を活用したイノベーション創出

- うめきた2期の都心の「みどり」の空間を通じて、来街者が参加・体験し、楽しみながら商品開発や評価に参画できる、世界で唯一のフィールドを実現
- 「みどり」の空間で繰り広げられる人々の活動は、個々人の協力を得て情報として活用され、新しい技術やサービスに繋がり、社会課題の解決に生かされることが期待される



ライフデザイン・イノベーション

超スマート社会が到来する中、IoTやビッグデータ等の活用により、創薬や医療機器開発などの分野にとどまらず、人々が健康で豊かに生きるための新しい製品・サービスを創出

- 「みどり」のフィールドで行う様々な活動やモニタリング・データ収集等に必要となる設備として、通信基盤、電源、給排水設備等をあらかじめ整備
- 実証を行うための前線基地となる空間を、「みどり」の中の施設内などに確保

イノベーションプラットフォームの構成

□イノベーションプラットフォームは、「プラットフォーム施設」と「イノベーション施設」で構成

・新産業創出

総合コーディネート機関
国等のイノベーション支援機関
研究開発プロジェクト

例) 企業の企画部門・研究部門、
ベンチャーキャピタル、
ファブリケーションラボ(工房)等

・知的人材育成

最先端の人材育成プログラム
(国プロジェクト等)

例) 教育機関等

・国際集客・交流

例) 短期滞在施設、飲食交流施設、展示施設等

プラットフォーム施設

延べ床10,000㎡の規模。入居機関のオフィス、共用ラボ、共用講義室、会議室等により構成

イノベーション施設

プラットフォーム施設の入居機関や利用者と連携して、「新産業創造」、「知的・人材育成」、「国際集客・交流」に貢献する事業を行う企業等により構成

プラットフォーム施設

□プラットフォーム施設とは

総合コーディネート機関や国等のイノベーション支援機関等が立地する中核施設

総合コーディネート機関の設置

プラットフォーム施設の中心的役割を担う「世話役」組織であり、新技術を持つ研究者や事業家など多様な人材を繋げ、研究開発等のプロジェクト創出をコーディネートするワンストップサービスを実施

イノベーション支援機関の集積

力のあるファンディングエージェンシー等を誘致・集積することで、研究者等が必要な資金等を獲得し、プロジェクト創出や事業化に挑戦できる機会等を増やす

研究開発プロジェクトの活動の場

研究開発資金を獲得した産学連携プロジェクト等が、一定のプロジェクト期間中にプラットフォーム施設に常駐し、実証研究等の活動に取り組む

人材育成プログラムの実施

複数の大学の連携等により、イノベーション創出に関連する人材育成プログラムを実施

プラットフォーム施設の利用イメージ

総合コーディネート機関（常駐）

【組織】事務局長、企画部門、プロジェクト創出支援部門、施設管理部門により構成

【運営】プラットフォーム施設床（約1万㎡）のサブリースにより運営の持続性を確保（想定）

- 【役割】①うめきた2期 新産業創出機能のプロモーション
②研究開発拠点等とのネットワーク構築・運営
③プロジェクト創出支援（企画・戦略立案、資金獲得・管理等）
④プラットフォーム施設の管理・運営

イノベーション支援機関（常駐）

ファンディングエージェンシー等を誘致

将来有望な研究に対し研究開発資金を提供

共用講義室等

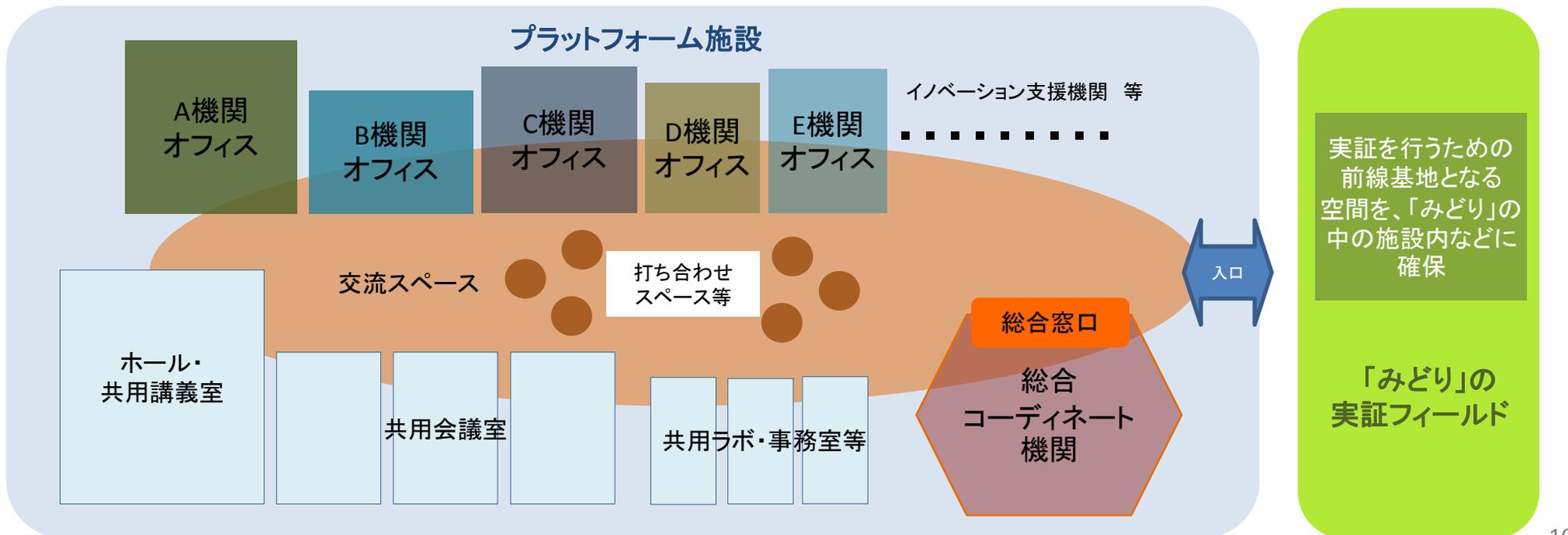
複数の大学が連携した、最先端の人材育成プログラムを誘致（講義、実習、セミナー、ワークショップ等）

交流スペース

異なる入居機関、会員、施設利用者の自由な意見交換の場を提供

共用ラボ

事業化を目指した実証研究プロジェクトを誘致
一定のプロジェクト期間中は滞在可能



イノベーション施設

□イノベーション施設とは

イノベーション施設は、プラットフォーム施設を利用する研究者等との協業を行う企業やイノベーション創出を促進するファシリティ等で構成される

イノベーション施設に期待する役割の例

企業の新規事業開発部門等が進出・入居し、プラットフォーム利用者との共同開発や販路提供などの協業が行われることで、出口に向けて事業化が促進される

ベンチャーキャピタルやデザイン会社、コンサルタントなどが近接立地することで、新規事業に必要なサービスや資金等の獲得が促進される

3Dプリンター等の各種工作機械を利用して、低コストかつ速やかなトライ&エラーを通じてアイデアを形にできる。また、そこに集まる異業種人材やクリエイターと共創して、新たなアイデアの発想やものづくりに取り組むなど、ものづくりへのチャレンジが促進される

語学や経営学など、民間の人材育成機関が入居することによって、志を持ち、イノベーション活動に挑戦する人材の集積が促進される

施設のフレキシブルな活用によって、展示会やシンポジウムが開催され、うめきたの情報が広く国内外へ発信され、さらに人材が集積する

まちびらきに向けた取り組み

**将来のまちの参画者・利用者との人的ネットワークの形成
イノベーション支援機関や、大学等が行う人材育成プログラムの誘致促進**



□ 先行的取り組み

- 国内外へのプロモーション

(例)イノベーション活動の成果をイベント等を通じて情報発信
まちの機能や魅力を向上し、国内外から研究者や事業家を呼び込むとともに、
海外のイノベーション拠点との連携を推進

- イノベーション創出につながる事例づくり

(例)大学や研究開発拠点の技術に基づく様々な新商品等を開発するプロジェクト
の立ち上げ

- 「自らイノベーションに取り組みたい」と考える人材を増やす

(例)大学等の人材育成や交流プログラムとの連携

推進協議会の設立について

- 地域の取り組みにより、「(仮称)みどりとイノベーションの融合拠点形成推進協議会」を立ち上げ、次年度より協議会メンバーがまちびらきに向けての先行的取り組みを推進

□総合コーディネート機関設立のプロセス



- 協議会は当初、府・市・経済界・UR都市機構・(一財)大阪科学技術センターで構成

(事務局:大阪科学技術センター)

- 協議会にて、総合コーディネート機関の組織体制や活動内容、プラットフォーム施設の構成等について協議・検討、開発事業者はコンペ後に協議会に参画

【協議会活動】

- ・国の競争的資金獲得等によるスタートアッププロジェクトの実施
- ・プラットフォーム施設の核となる機関の誘致
- ・プロモーション活動

※当初は、次のようなスタートアッププロジェクトを予定

- 関経連:健康・医療データ活用促進事業
- 大商:社会実証・実装ラボ事業
- 理研等:健康“生き活き”羅針盤リサーチコンプレックス(連携)

- ・総合コーディネート機関は、その目的を果たせる法人とし、まちびらきまでに設置する
- ・協議会に蓄積されるノウハウ等を総合コーディネート機関へ円滑に継承する

民間開発事業者に提案を求める内容(中核機能関連)

- ① 「ライフデザイン・イノベーション」のテーマに沿った、先導的に取り組む分野や活動内容
- ② 総合コーディネート機関の持続的な運営を確保するための方策及び活動方法
- ③ プラットフォーム施設の整備計画
- ④ プラットフォーム施設と連携するイノベーション施設の導入機能と整備計画
- ⑤ 総合コーディネート機関設置までの先行的取り組み(協議会活動)